

# CASBEE 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ふくおかフィナンシャルグループ	階数	地上7F
建設地	北九州市小倉北区堺町2-2-18	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	636 人
気候区分		年間使用時間	3,500 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年1月	評価の実施日	2011年11月7日
敷地面積	2,697 m <sup>2</sup>	作成者	(株)日建設計 妹尾賢二
建築面積	1,949 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	10,025 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: A: B+: B: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
機能的でシンプルな執務空間と、印象的で立体的な外部空間を実現するオフィス計画である。市内でも比較的大きな交差点に立地し、街のランドマーク的役割を果たすことを目指す。緑が充実した外構空間を形成し、街角に見通しの良い憩いを提供する。		
<b>Q1 室内環境</b> 敷地の2辺で片側複線道路に面するため、窓の遮音性能・内装の吸音性に配慮した。設備容量は標準的なレベルに抑え、建物の断熱性能を十分に確保する計画とした。建物形状を利用して昼光制御性を高めた。原則としてFの内装材を使い、空気環境の維持に努めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 一人当たりの執務スペースがわずかにレベル3を切っているが、十分な天井高さ・階高・バリアフリー化を旨とし、維持管理しやすく機能更新しやすい計画としている。設備面では災害時の機能維持とリスク分散に配慮している。7階食堂は事実上は建物全体のリフレッシュスペースとして機能する計画である。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物の機能性に配慮しつつ、敷地内の緑化・屋上緑化に積極的に取り組んでいる。街並みとの調和をめざし、色彩・材料・建物ボリュームの分節・応空間の形成などに取り組んでいる。また見通しの良い街角空間の形成を目指した。屋外設備機器の大半は屋上に設置し、歩行者が設備機器を目にすることが無いよう配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> 部分的な自然換気・ハイサイドライトの採用、屋上への太陽光発電パネルの設置を行っている。高効率の設備機器を採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体材料へリサイクル材を採用、エコマークを取得した建築材料の採用を計画している。躯体と外壁、躯体と仕上げが容易に分別可能であり、再利用可能なユニット部材を広範囲に採用している(OAフロア)	<b>LR3 敷地外環境</b> 四周を道路で囲まれた敷地であるため、各道路から外壁面をセットバックさせ歩行者スペースと緑化スペースを確保した。2階屋上・7階屋上については屋上緑化を計画している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい